

中央大学理工学部電気・電子工学科

同窓會々誌



(撮影 30年卒 大越氏「西伊豆・井田」にて)

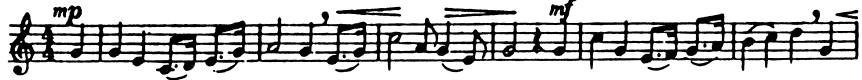
1991-10

28号

中央大学校歌

石川道雄 作詞
坂本良隆 作曲

力強く行進曲風に ♩ = 116



く さのみどりにかぜかおる おかにまばゆきは



くもんを したいつどえる わこうどが まことのみ



ちにはげみつつ はえあるれきしをうけつたう あ



あ ちゅうおう われらがちゅうおう ちゅうおうの なよひかりあれ

一、 草のみどりに風薫る

丘に目映き白門を

慕い集える若人が

真理の道にはげみつつ

栄ある歴史を承け伝う

ああ中央、われらが中央

中央の名よ光あれ

二、 よしや嵐は荒ぶとも

揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢の花ならで

みのりの秋やめざすらむ

学びの園こそ豊かなれ

ああ中央、われらが中央

中央の名よ誉あれ

三、 いざ起て友よ時は今

新しき世のあさばらけ

胸に血潮の高鳴りや

湧く歌声も晴れやかに

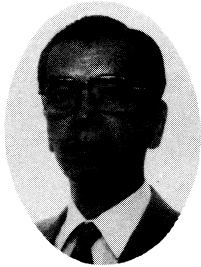
自由の天地を展げゆく

ああ中央、われらが中央

中央の名よ栄あれ

目 次

中央大学校歌	2
会長あいさつ	会 長 堀中 武和 4
電気・電子工学科の昨今	教室主任 徳丸 洋三 5
在外研究を終えて	古屋 清 6
同期生 伊藤 登教授のご逝去を悼む	昭35年卒 秋山 浩徳 8
ドイツ・スイス印象記	昭41年卒 荒牧 成光 9
米国駐在記	雨宮 敏朗 13
技術士資格取得体験記	天野 浩志 15
卒業年次別会員数一覧表	17
卒業年次別会員数推移	18
平成3年度卒業生進路先一覧表	19
卒業生過去3年間の進路先一覧表	20
平成元年度 会計報告	22
卒業生名簿1991年版発刊について	22
入会申込書	23
編集後記	23
平成3年度 総会・懇親会のお知らせ	24



会長あいさつ

会長 堀 中 武 和

同窓会員の皆様には、ご健勝で活躍されておられることと存じます。

昨年この会誌をお届けしてから、この一年間に世界はめまぐるしく変動しました。イラクのクエート進攻に伴う湾岸戦争、ソ連経済の破たん、8月の政変、地球規模の環境破壊問題等々。この中で日本経済にもようやく瀾みが見えるとは言え「電、光、石、化」に象徴されるハイテクノロジーで着実に前進を続けております。

さて本年も新しい200余名の新入会員諸兄を迎えて、同窓会の益々の充実を図るべく幹事会を重ねております。その中の一つとして、会誌の一層の充実を計りたいと願っております。年一回の総会・懇親会が有りますが、時間的な都合や、地方在住の方には御出席戴く機会が少ないかと思ひます。従って会誌が会員相互の情報交換の唯一の手段となります。

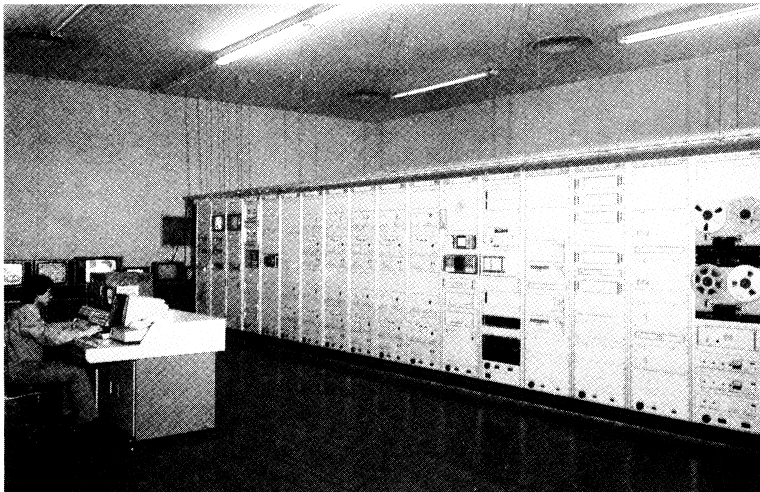
6000名会員相互の交信を豊にするため、皆様方の近況や会誌に対する意見をぜひ寄せていただきますようお願い致します。

一方数年来続いている在校生に対する、卒業生による特別講義も回を重ね、実社会での豊かな経験に基づいたユニークな講演が定着し、本年は10月に予定しております。また、数年来の念願でありました名簿がやっと完成致しました。多数の会員の方々にご利用戴きたいと願っております。

本年の同窓会・懇親会を11月9日(土)にお茶の水、中央大学駿河台記念館でおこなうことにしました。昔なつかしい場所に数年前立派な記念館が建設されております。御家族も同伴で多数ご出席戴き旧交を温めていただきます様御案内申し上げます。

最後に電気電子工学科同窓の皆様がご健勝で益々活躍されますようお祈り致します。

エイデンのブランドは世界50カ国以上の放送・生産分野で活躍しています。



おぜいの本校卒業生が経営・開発・設計・生産・製造技術などの部門で個性を発揮しています。

◀海外大手家電メーカーで現用中のエイデン製信号発生システム

放送・通信の明日を探索する

エイデン

お問合せは下記へ

営電株式会社

〒214 川崎市多摩区壠1-22-10
電話 (044)811-1371

電気・電子工学科の昨今

教室主任 徳丸洋三

同窓生の皆様には御健勝にお越しのこととお喜び申し上げます。

皆様の卒業された電気工学科は平成元年4月より電気・電子工学科と改称し、2年を経過し今日に致っております。現代社会はエレクトロニクスの時代と言われるようになって久しく、電気工学科と称しているだけでは周囲の情勢に適応し難くなり、端的に言えば名実ともに古くなったからだと思います。それに伴い授業内容、施設の変更、充実がはかられ現在は、(1)電気エネルギーの発生、輸送、変換、制御、利用の技術、(2)情報の伝送、処理、管理、利用の技術ならびにこれらを支える、(3)エレクトロニクス技術の3分野から成っております。来年度は数人の新任の先生を迎えて更に充実がはかられる予定です。

ところが技術の進歩とそれを利用した社会生活の発展はとどまるところを知らず、今や世界はエレクトロニクス技術を基礎とした情報化社会へと変貌しつつあります。新聞、テレビ等のマスコミによりますと、情報関係の仕事にたざさわる人の求人は、これからますます増大の一途をたどり、しかもそれらの業務に就業可能な期間は他の職種に比較してかなり短いと聞いています。従ってその要員の不足は目に見えていると言ってよいでしょう。この事態に対応すべく教育界(大学)も新たな体制(学科の増設、定員増等)をしく必要があると思います。わが中央大理工学部も外部又は内部の情勢から、そのような動きをとらざるを得なく

なると思っております。

例年のことですが、今の時期(5~7月)は就職戦線が最も活況を呈する時期であります。それについても、昭和35年頃以前と現在とでは今昔の感にたえません。昨年と同窓会々誌によりますと、電気・電子工学科だけで求人企業が八千数百社を越える程になっているそうです。ちなみに卒業生(求職者)は二百数十名です。現在は全くの売手市場と言った感じで学生の中には多少おごりを感じさせる態度がなくもありません。就職活動に一所懸命で、学業がおろそかになっているのではと危惧させる者もいるようです。有名企業志望者が大部分で、これは変った所を選んだなどと思わせる者がたまにいるぐらいです。

千客万来でとにかくお忙しいのは就職担当の遠藤、市川の両先生です。卒業時が好、不況により見方は異なると思いますが、同窓会の先輩方は現在の学生達をどのように見ておられるのか、お聞きしたいものです。

現在、理工学部長は猪狩先生で、就任されてもうすぐ2年が経過しようとしています。また、この4月、篠田先生は国際交流センター長に就任されました。福沢先生は来年3月で御定年を迎えられます。最終講義のときは多数の方の御出席をお願い致します。最後になりましたが、一昨年ご着任いただきました伊藤登先生(中大電気、昭和35年卒)が本年4月逝去されました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(主任教授)

最先端技術への挑戦

Hardware and Software Technology

CSR

中央システム技研株式会社

☎186 東京都国立市東1-18-8 TEL0425(76)7151(代)

在外研究を終えて

古 屋 清

1年間の在外研究を終え、3月末に無事帰国致しました。このような機会を与えて下さいました中央大学と、留守中に御助力を下さいました皆様にこの稿をお借りして御礼申し上げます。

在外研究の行き先を決めるにあたっては、落ち着いて仕事のできることを第一に考えましたが、どうせのことならば気候や生活環境がよくて観光も適当にでき、子供たち（当時、小5と小3）が多少とも英語を憶えられるところということで、米国カリフォルニア州のスタンフォード大学を選びました。スタンフォードはサンフランシスコの南約40キロのサンフランシスコ半島の付根の辺りの湾に面したところにあります。そこから湾の奥に位置するサンノゼにかけてはシリコンバレーと呼ばれ、シリコントランジスタの開発初期から先駆的な役割を果たしてきた地域です。現在では半導体産業の他に、サンマイクロやDECなどのシステムメーカーが多くあります。スタンフォード大学は広い敷地を所有しており、その一部をゼロックスなど30数社の研究施設に貸すことによって直接の利益を得ると同時に、共同研究を通して協力を進めてきました。美しい教会を中心とした無料ツアーがあり、辺りの赤瓦の南欧風建物などを概観できるフーバートワーにも1ドル出せば登れますので、例えばサンフランシスコから日帰り観光コースとしてお勧めできます。ただ、89年のサンフランシスコ大地震により受けた損傷で、教会内部の見学はできないのが残念です。復旧にはかなりのお金が必要なため、見通しがたっていないようです。

スタンフォード大学での受け入れ先は、E. J. マクラスキー教授でしたが、その名前は論理回路関係の教科書には必ずクワイン-マクラスキーの論理最小化法として登場するのでご存じの方も多と思います。論理設計の分野では、設計記述言語に関連した設計自動化や回路のテストが現在も主要なテーマとなっていま

す。論理の最小化に関する研究も前者に付随して近年、再び盛んになっており、新しい方法がいろいろと提案されています。また、テストに関しては、VLSI/ULSI化に対応する方法として、テスト容易化設計(DFT=Design For Testability)や組込み自己検査(BIST=Built-In Self-Test)などが研究されています。私の在外研究中のテーマとして、主としてCMOS回路に対するBISTに取り組んできました。CMOS回路のオープン故障を論理的にテストするには連続した二つのパタンを用いる必要がありますが、疑似ランダムパタン生成回路によりそれを生成する場合のランダム性の尺度の提案と、その尺度に基づいたランダムパタン生成回路の設計に関して、よい成果が得られたと思っています。

マクラスキー教授の研究室には7人の博士課程学生がおりましたが、生粋の米国人は女子学生の1人だけで、他はブラジル、中国、中東、イタリアなどからの留学生でした。これは米国の大学の一般的な傾向と一致しています。わが国でも、次第にその傾向が現れているのはご存じの通りと思います。これらの博士課程学生と、私のようなビジティング・スカラーは、マクラスキー教授に対して毎週1回、20分間の一对一の研究報告が義務づけられていましたので、その準備のために結構忙しく過ごしました。また、スタンフォード大学はクォーター制をとっており、8月半ば頃までの他の学期よりはやや短い夏学期もありますので、皆ほとんど一年中勉強に励まされておりました。それでも、日曜日には付近の名所を回ったり、休暇にはヨセミテ、ロサンゼルスやサンディエゴ、グランドキャニオンとデスバレーなどのサイトシーイングにも出かけてきました。また、ハロウィンやクリスマスなどのお祭りも一通り楽しんできましたので、初期の目標は達成することができた次第です。

二人の子供たちは、月曜から金曜までは現地校に通い、土曜日にはサンノゼの日本語補修校に通いましたので、やはり結構忙しそうでした。現地校では週に3回、ELD (English Language Development) クラスがあり、語彙や発音などを教わっていました。rとlの発音は親より正しくできるようになりましたが、帰国後にそれを維持するのはなかなか難しいようです。余談ですが、サンノゼ辺に長く居た子供が日本に帰国すると、日本風英語の発音に慣れるのに苦労するのだそうです。

最近では、中央大学、あるいは Chuo University の名前を幾つか出すことができれば、それが大学や皆様に対して多少とも恩返しになる思い、在外研究中の成果を研究会や国際会議に出すために努力しております。

(電気・電子工学科教授)



TOSHIBA

Life is so much easier once you remove the language barrier.



はじめて言葉が通じ合えたときの
あの、みずみずしい感動をおぼえていますか。

人と人が理解し合い、信頼し合うために
情報・通信テクノロジーが果たす役割は
ますます重要になってきました。

年を追うごとに大きくなる国際化の波。
国境を越えたグローバルなコミュニケーションを

ひとつでも多く実らせるために
先端技術をくらしの中に活かしてゆきたい。

1991年の東芝です。

先端技術をくらしの中に… エナジーとエレクトロニクス **E&Eの東芝**

同期生 伊藤 登教授のご逝去を悼む

S.35卒 秋山 浩 徳

あれ程元気に活躍されていただけにびっくり致しました。

卒業後通産省工業技術院に奉職され、平成元年新エネルギー総合開発機構燃料貯蔵技術開発室長を歴任され母校中央大学に就任されました。

この間、イギリスマンチェスター大学電力系統研究所客員研究員、46年には、東京電機大学より学位の授

与、さらに電気学会より論文賞、進歩賞を受賞されるなど多くの功績もありました。

学生には、「送配電工学」の講義を通して人気も高いときいて同期生として大いに誇りとしておりました。

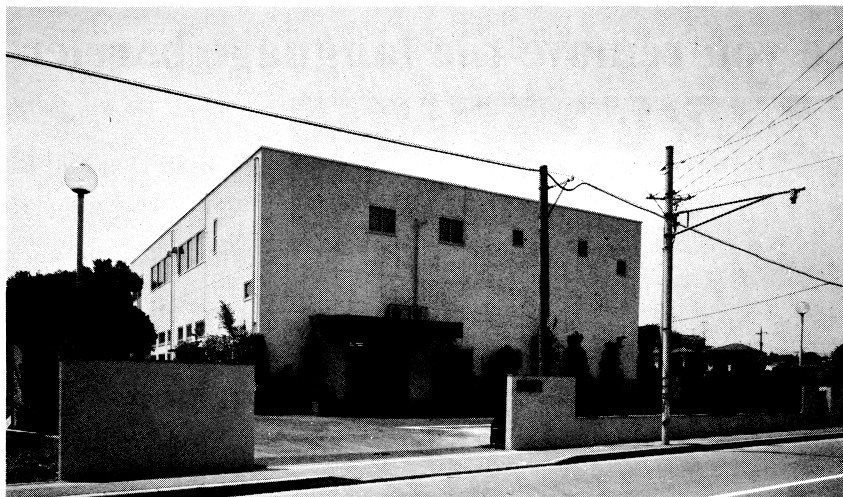
われわれとしては、誠に残念ではありますが、謹んで冥福をお祈り申し上げる次第であります。

大興電機(株)



通信の未来を見つめる

CODEC



株式会社 コーデック

〒213 神奈川県川崎市宮前区平1丁目2番11号
TEL. 044-866-3111(代) FAX. 044-865-4608
中大OB社長以下4名

ドイツ・スイス印象記

S.41卒 荒 牧 成 光

今年4月社用でドイツとリヒテンシュタイン（スイス経由）にある夫々の会社を訪問した。その折りに感じた事の一部を思い付くまま記してみたい。

何時かは破綻を来たすのではないかと思われるような慌しい準備をして、成田を飛び立った。勿論飛行機の中も重要な準備時間として利用しながらでの訪問であった。連れが居なかったことも忙しさに拍車を掛けた理由の1つである。

4月3日午後1時に成田を立ち、直行便で当日夕刻にはフランクフルトに着いた。蛇足ながら、この便では隣に電気工学科S41年同期の、今はお坊さんになって居る旧姓倉岡君の勤務していたT社の方と隣合わし、倉岡君の話が聞けた。おかげで思わず昔の懐かしい思い出が蘇る楽しい一時であった。

ドイツの会社では、一日の業務が終わる夕刻にはディナー、日曜日にはハイデルベルグへの観光案内を受けるなど、気の抜ける事もあった。この中の1つ、現地の会社の事業部長 Dr. B 氏の案内でレストランで食事や軽くワイン等をやっての帰り道、勿論外は漆黒の闇であった。ホテルまでとどけてもらう道すがら、アウトバーンをベンツで疾走するときの事である。帰りが12時近くと遅くなったこともあるが、スピードメーターが190km/Hを越えていた。助手席でのこの速度は迫力があつた。因みに彼らの流儀では賓客（あるいは賓客と一人よがりの思い違いかもしれない）は助手席に乗せるものらしい。彼は日本に来たとき私の車で出かける折、助手席に座るのが当然というような態度で車のサイドに立ったのである。勿論ドイツの高速道アウトバーンは制限速度はないし、ベンツもそのように合わせて作られているのであろうが、あまり街路灯などの無い闇の中をこのスピードで走るの、余り気持ちの良いものではない。

◆ドイツ人の働き方

ドイツのL社を訪問し、この会社で打ち合わせや実験等を行った際、彼らの会社をみてドイツ人の働き方について受けた印象について述べてみたい。

まず就労時間であるが、噂に聞いていた通り残業は殆どしない。朝は早く7時には殆ど全員が揃い、夕方4時には殆ど誰も居ないと言うふうであった。組合の力が極めて強いためといていたが、日本のマスメディア情報で聞いた年間の就業時間が日本の2000時間余りに対して、1600時間余りという事である。このようなことは道路工事に携わる人の場合でも同じだという。

4月初旬であったがドイツは緯度が高い為、朝はフランクフルト近くで6時前後に明るくなり、夕方は8時半頃暗くなるという一日である。午後4時に帰れば未だ十分に明るく、外でのハウスキーピングや菜園をいじることくらいは十分出来る。しかし、残業をしないのはこのように一日が長い夏の間だけでなく、冬も同様という事である。唯、こちらに付き合ってくれた人たちは、マネージャークラスであったため、午後6時、7時までもミーティングや、実験に付き合ってくれた。

このような就労時間以外の点では、彼我の差を感じるのには研究開発業務の進め方である。これは今回の業務でいろいろな人と会って話を聞いたり、会った人から得る情報によって判断したことである。

ミーティングに際して技術的に突っ込んだ話になると、例えば午後に別の専門の人とミーティングを設定するからそこで聞いてくれと言う話になる。その専門の人、これはほとんどが Dr. であったが、この人に会うと、ほとんどの事にちゃんとした見解またはデータがある。これは一つ一つの現象、問題点、あるいは課題等に対して、それなりの対応策や実験をしていて、

結論を導いているという事である。

我々とは、小職の経験の中で周囲を含め良く物事を考え研究開発を進めていたのは研究所だけだったような気がする。殆どの所は現在の所も含め、技術者は朝は8時から、夜は9時、10時まで専ら頭脳労働と言うよりは、時間と人の数の積のような働き方で仕事を進めている気がする。これが日本ではどの会社でも同じようなものだすると、それでいながら世界の一流品が生まれたり、外国より早く商品化が計れたりするのは理解し難い所である。

私見では、民生品の様な変化の激しい製品では、日本のような進め方が良いのかもしれない。工作機械や機械工具等のように進歩は然程でなく、細かい配慮が必要などころではドイツのような進め方が良いのではないだろうか。この点はもう少し調査をしたうえで考える必要があるかもしれない。

いずれにしても、彼らは個人の力に頼るところがある。この為一個人の力は大層に高くなるが、生産に移し事業化を計るうえで、業務を細かい部所にまで分担して進める日本のやり方とでは、実用化に際しては差が出るのは当然の気がする。このような方式のどちらが良いかという事に関しては、どちらか一方というのではなく、状況に応じて使い分けるのが良いと思う。唯、物事を深く掘り下げて考えるようなことがなければ、所詮進歩は高が知れている。身近にもこの事を肝に銘ずべきと思われる所はおおい。

もう1つは、彼らの物造りが使い捨て品を作るというより、マイスターが長持ちをして代々使われるような製品造りをしようとするところがある気がする。最近の日本では使い捨て指向で新製品開発をしてきたのではないと思われる。是非は別にしてこの心の持ち方の違いが製品開発の差に影響を与えてきたような気がする。

更にもう1つは、日本における過当競争である。私見ではこれは農耕民族で人口密度の高い場合の固有の現象ではないかと考えている。この過当競争を支えるため無い進歩は職場全体に進歩・改善することが自然であるというような風土を生み出す。この点は外国との間で差を生み出していないだろうか。

此等の是非は別にして、夫々の国の歴史や文化によって育まれた個性が今日の社会形態を表しているであろう。色々感じる事が多かった。

◆スイス・リヒテンシュタイン

スイスチューリッヒ空港から列車で湖に添って行くと1時間ほどでSargans駅に着く。ここはリヒテンシュタイン国への一つの入口になるスイスの駅である。駅は最早アルプス固有のU字型の谷にあり、壁のように切り立った山の頂上が間近に迫っている。車でライン川に架かる橋の国境を越える。しかし国境の標識さえ見当たらない。リヒテンシュタインは所謂一般の国と異なり、経済特権のみの国と聞いている。その国に入っただけで、その土地の名を冠したB社を訪れた。

B社の製造責任者に会い、仕事の上での打ち合わせと、情報交換をした後、夕刻に食事を共にする約束をして別れた。夕刻食事をするレストランに着く前に、その人のお宅にお邪魔した。この主人は東京オリンピックに射撃の選手として参加したとのことである。びっくりしたのは、案内された地下へ行く途中の階段の片隅に、自動小銃が無雑作に立てかけられていた事である。弾は空箱しかなかったが、民家にこのように銃火器が在るという事は国民皆兵の国と雖も、びっくりしないわけには行かない。

案内された地下にはコンクリートの20cm余りもある扉を開けると4帖半位の核シェルターが作られている。天井のコンクリートの厚さは80cm位はあるという。フィルター付きの換気扇が在ったり、小さな窓もやはり頑丈なコンクリートの扉になっていた。案内されたときは非常用でもあるというのがワインの貯蔵庫になっていたのは、やはり平和が長く続いている為かとも思えた。

チューリッヒからSargansに向かう列車の途中で、山の側面の岩肌に人工的に穿たれたと思われる大きな洞を見たが、これは岩山の中に設けられた兵隊の隠れ家の空気抜きではないかと聞いた。

更に大病院は相互に結ぶ地下道が出来ていて、この道路は車が80kmの速度で通行できるという事や、極く山頂のスキーリフトのあるところでしか電柱・電線がなかったことなど、戦争に対するこの国の気構えを

感じた。

ハイジの里を見下ろせる古城のレストランでの食事やワインは格別であったが、今の記憶は専らそこでの景色の方である。静かな村であるが古い町並みという感じではなかった。

スイス人の中流の平均収入600万前後と決して多いほうではなく、多く給料をもらっても税金が極めて高いという。しかし逆に年収の特に少ない人も居ないという。程々の家並みは貧富の差が少なくあるいはソ連の目指した国の姿はこんな物だったのではないかとさえ思えた。

宿泊したリヒテンシュタインの宿は、ヨーロッパの一流ホテルに劣らず高価であったが、部屋の広さと調度品は立派であった。アルプスの観光と精密機械の国スイスも、生活の息吹が感じられるところでは、表面的なものとはやや違った側面が見えてくる。

日本は豊かか

世は上げて日本の豊かさを強調している。完全週休2日、高給、高額な住まいや土地、高級なファッション衣服の売れ行き、豊富な物など。

しかし、我々は本当に豊かだろうか。

暫く前に、NHKのTVでイタリアの30代位のサラリーマンが子供2人を持ち、収入が確か300万円台でありながら、一部屋一部屋が大きく、且つ多くの部屋数を持ったマンションとローンながら別荘を持って生活をエンジョイしている例があった。

アメリカは政府の財政赤字が相当なものだと報道されている。しかし高速道路はほとんどの所で無料で、大きな都市のごく一部のみ有料である。有料と雖もこの価格は数十円程度だったと記憶している。これはドイツのアウトバーンでも同じで、ここでは有料化が検討されているというものの、未だ無料で道幅も広い。しかも全国網目のように張り巡らされている。

最早6年以上前の事であるが、オーストラリアで現地法人のトップの家にお邪魔した。給料は間接的に聞いたことであるが年収800万~900万位ではないかと聞いた。この人はイギリスの大学に留学をしたという事であるが、奥さんと子供2人の家族では我々から見るとかなりの家に住んでいる。この家にはプールがあり、

車は高級なクラスのBMWを持ち、住んでいる環境はシドニーを紹介する観光案内にもよく出てくるオペラハウスから然程遠くない海よりの高給住宅街にあった。

物価に関して、食べ物・日用品の類は当時の換算レートでホテルの新聞に折り込まれていたチラシの価格では日用品の例えば台所用洗剤のような類の物は日本よりやや高かった気がする。野菜、果物などの農産物はまとまった量の買い物をしなければならないが、ものすごい量があり圧倒的に安い。オーストラリアが農業国でもある為かもしれない。

レストランでの食事代については、アメリカのレストランではある程度そこそこの金額を出さなければならないにしても、その金額にしては、日本に比べ量が多い。例えば、ハンバーガーショップでも同じ事で、ローストビーフのサンドイッチが7~9ドル位出すと、挟むパンの間からローストビーフが溢れていて、これと何かジュースを飲むと彼らでも最早一食は完全に足りるという量である。食べ物のコストパフォーマンスに関しては、イギリスでもドイツでも同様の印象を受けた。アメリカで日本人の経営するレストランでは、良い材料を使い、しかし量が少なく、高価である。日本では、安い物は駅のかけ蕎麦のようなものから一流レストランあるいは料亭の懐石料理まで、量は少なく、価格はどこまでも高いという気がする。

ルーブル博物館がパリにある。ここの入場料金は10年くらい前で13フラン(当時のレートは50円/フラン)で、ここで見られる世界の超一級美術品がこの美術館の中にひしめいており、到底1~2日で鑑賞しきれない気がした。同様に、イギリスの大英博物館は無料である。入口の中央には有志の奉仕を願う壺が置いてあるだけである。

日本ではどうであろうか。

兎小屋に住み、通勤は満員電車で長時間ゆられ、隣とひっついてプライバシーを守るのが容易でない距離にひしめいて、我々は暮らしているのである。住む家が満足でない代りに、身に過ぎた高給車を露天の駐車場や道路においたりしながら乗り回している。

時々新幹線に乗って関西の方に出かけるが、この折り眺められるのは狭いマッチ箱を立てたような建て売

りとおぼしい個人の住宅が、町並みと言うよりそれこそ地球に出来た、建物の吹出物のように不自然に、木々や憩いの場もなく並んでいるのを見て、世界の一流のGNPや余っているという豊かなお金は一体何の為に使われているのかとってしまう。

それらの土地の価格や建物の価格が上がれば、一見大金もちに成ったような錯覚を持つかもしれない。しかし、固定資産税が上がると、そこを売って田舎の安いところに一生過ごそうというならいざ知らず、何のメリットがあるのだろうか。勿論安全で購入したのではないはずであるから、終の住処と思わないでも、住み変えることは容易ではないだろう。言うまでもなく含み資産かもしれないが、この事自体はなんらの生活の豊かさとは結び着かない。

観光地の見学料は、僅かの美術品やこの内容に比して高すぎないだろうか。金余りの国だからこれで良いのだろうか。これもGNPを押し上げる効果にはなっていない。

都内を走る高速道路は当初100円だったろうか。これも、資金回収の末は無料にするという話があったはずである。所が今はどうであろうか、じりじりと料金は上がり、渋滞は一向に解消しない。一説に天下りの官僚の退職金の引き当て分という説があるが定かでない。

スポーツ施設が最近日本でも多く出来てきた。高い土地に作る施設であるから仕方無いのだろうか。此等の料金は極めて高い。目的は、こういう施設が我々の生活に必要なから作るのではなく、事業家や会社が儲ける為に作られるのであるから当然の事なのかもしれない。外国ではごく安い費用でゴルフも出来ると聞いている。

我々は思い違いをしているのではないだろうか。原料を外国から買って、これに製品化までのあらゆる段階で付加価値を付け、製品が輸出される。製品が輸出され、売れさえすれば、企業の利益はそこそこにして、あるいは例え損をしても、国全体を考えれば雇用拡大を促し、付加価値を付けられた製品が外国に売られ、この輸出代金が製品化に従事した多くの国民に給与の形で払われたはずである。この様にして多くの付

加価値品を販売した結果、多くのお金が日本に入り、これが少しずつ銀行に集められて、更に融資の形で高額な土地を担保にお金が市場に出回るという事になる。このような資金の流れは誰でもバブル経済の形で間近に見ることが出来たはずである。

しかし此等の資金は我々に生活、あるいは文化的な、安い費用で娯楽をエンジョイできる社会資本の充実に回されただろうか。お金は確かに一流の外国と比べてみても金額では高い給料を得ている。これによって得られる生活は、外国人の同じ給与を得ている人たちと同様な生活が出来るのだろうか。

付加価値を国内で上げた製品を輸出している結果が、今日の錯覚の源であると私は思っている。製造メーカーは国内の賃金が高くなったり輸出摩擦を解消するため、外国で生産しようとしている。三次産業だけでは勿論、この金余りの現状を維持することは出来ない。外国で生産すれば、企業の利益は維持でき、そこに勤める人達は給与を得ることが出来るが、全ての企業が外国で物を作ることは出来ないのは当然である。従って輸出が少なくなったときが目の覚めるときではないかと思っている。

社会資本の例えば充実している例えば、ドイツが道路網が完備して流通の無駄が少ないとし、日本がもしドイツと同じ労働条件になったとしたら、それでもなお我々は彼の国に輸出をして行くことが出来るだろうか。

我々は物を作るという基本に戻らなければならないのではないだろうか。

豊かな日本とは、何が揃っていることなのだろうか。広く物質に限らず、日本のそこに住む我々の本当の豊かさを考え、そのために何を為すべきなのだろうか。

勿論豊かでない日本で、此等を解決しようとして、国を上げて取り組んでいるというならばよい。我々は、今までもそうであるが、外国人と異なり農耕民族の非常に忍耐強い性質を持っている。これまで待ったのであるからもう暫く待てない筈が無いし、暫く諦めて、僅かな小市民的な楽しみに埋没していることも出来る。しかしもう少し将来の豊かな生活への見通しが欲しいと思うのである。

(株) 東芝

米 国 駐 在 記

雨 宮 敏 朗

子供の米国における中学校生活は「Detention」カードから始まった。Detention カード、罰点カードである。つまり、子供が授業中に騒いだり宿題をやってこなかったりした時与えられる罰則で、昼やすみに校庭の掃除をしなければならない。我子は、右も左もわからず、校庭の掃除をやらず、したがって、さらなる罰点カードをもらい、翌日も3枚目の罰点カードを食って帰って来た。本人もさすがにおかしいと気づいたらしく、どうしようと青ざめた。

ここで父親の登場である。担任の先生とアポイントをとり、次の日の昼休みに面会した。30代の独身の白人女性で、父親が会いに来てくれたという事で、実にあたたかく迎えてくれた。英語がわからなかったのだから始めの罰点カードは当然であるけれど、2枚目、3枚目は不当ではないかと説明すると、実にあっさり取り消してくれた。罰点カードを5枚もらうと、退学処分にもなると云う事だから子供もホット一息であった。それにしても米国の学校とは、実に大らかな所で登校初日に子供をつれて学校へ行き、事務所で簡単な入学手続きを終えるとそのまま教室につれて行き、いきなり授業が始まったのには驚かされた。考えて見れば、移民の国アメリカで、毎年数十万人の移民を受け入れ、その子供達が、言葉もろくにわからず、入学して来るのだから、いちいち特別あつかいしていたら学校が成り立たなくなってしまうのであろう。

さて、一段落したら宿題だ。論文形式の提出が多いので、日本でOX式で慣れた子供には、まったく手がつけられない。例えば、歴史の宿題でこんな例があった。南北戦争中、リンカーン率いる北軍の一部隊が、堀に囲まれた南軍の砦を攻める事となった。30日間にわたる激戦の末、北軍の勝利に終わったが、北軍側も数百人死者を出すにいたった。設問は「他にいかなる方法で、死者の数を減らし、勝利する方法があるか、そ

れを記せ。また、その方法の損得をのべよ」である。これは戦略論である。ここには、年代をおぼえるとか、登場人物の名前をおぼえるとかは、まったく求められていない。考え方、構想のたて方、発想が重要視される。低学年の頃から個の確立、他人とは異なる考えを持つ事を要求される。能力のある子にとっては、すばらしいシステムだろう。優秀な子は、言われなくても年代だの登場人物の名前もおぼえるだろうし、戦略思考もやしなわれるだろう。中学1年生でも、特定の科目、例えば数学が出来れば、この科目だけ2年生、さらなる上級のクラスに行ってもよいのだ。小学校や中学校から受験受験で、答案用紙の回答を出す事に追いまくられる日本とは大違いだ。が、米国システムの欠点もある。能力優秀な子供はどんどのびるが、そうでない子は、暗記する事もなく、考える事もなく終わってしまう。日本のように、なんとか平均レベルまで引き上げようと云う事もないので、ダメな子は徹底的にダメになってしまう。違った意味の教育の荒廃が、米国では始まっている。

一製品レベル、一企業レベルでは、大いに能力を発揮するが、国家レベル、地球レベルの問題となると日本人はお手上げだ。かの湾岸戦争では、「新世界秩序」になるとてつもない構想をブチ上げた、米国に手も足も出ず日本国家としての馬脚を現わしてしまった。

半導体だ、コンピュータだ、カラーTV、VCRだと云うように、多くの人がチームワークを重視しながら仕事をする分野は、日本の独壇上だが、最初にやるとなると疑問符がつく。

1972年、今から20年前、始めて米国を訪れた時、米国はかがやくばかりで自信にあふれ、あらゆる分野でリーダーシップをとっていた。技術提携を結び、技術を米国から導入しなければ先端技術の商品は何も作れなかったと云ってもよい。コンピュータやその周辺

機器を売るなど、もってのほか。日本製は性能悪く、品質悪く、値段は高かった。それが今日どうか。市場を独占し、あらゆる分野で摩擦が起きていることは、今さら云うまでもない。湾岸戦争で力まかせにホームランを打ってはみたが、日米のファダメンタルズは、まったく変化していない。マクロのアメリカでミクロの日本だ。米国の識者の間にもあまりにも自由で、個の確立に専心する教育システムに疑問を投げ、日本式

も組み入れるべきだという考えが出始めている。実業の世界でも同様だ。やたらと日本ばかり叩くのでなく米国の世界でも同様だと云う風潮が出て来ている。この所の微妙であるが、非常に大切だ。日本は単独で生きて行けないのだから米国内の穏健派と手を結び、これを助け、決して驕らず、日本の役割、ミクロの役割に徹するべきだと思う。

国際政治問題、国際間の紛争は、1に宗教、2に民族、3に経済問題によって起きると言われる。宗教問題と民族摩擦のない、ただ経済摩擦だけがある日本では、世界的視野を持った政治家や指導者が育つはずがないのだ。日本国家の特質、日本人の特質をよく理解したうえで、大は国の方針、小は企業の商品開発にいたるまで決めて行かねばならない時代になったと思うが如何がなものだろうか。

1989年から1991年にかけて、米国、東芝アメリカ社に駐在、コンピュータ周辺機器の販売に従事、91年6月に帰国、現在に至る。

(株) 東芝情報通信国際事業部

MITSUBISHI

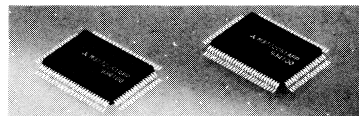
技術がつるも高度なふれかゝる **SOCIO-TECH**



**(高速ファクシミリも、
DMACのおかげです。)**

**DMAC(ダイレクト・メモリ・アクセス・コントローラ)内蔵により、
CPUを使わずにメモリ間でのデータ転送を実現、
大量データの高速処理が可能になりました。**

「8ビットマイコンの手軽さで、16ビットマイコンを自在に使える時代がくる」ことを予想し、1歩先をゆく《MELPS7700》ファミリに最新鋭マイコンが加わりました。次代を確かな目で予見し、お客さまにさらなる付加価値を…Something Newいつも何かかが新しい…三菱半導体です。



MELPS 7700

三菱16ビットマイコン

M37720S1FP/SIAPP

三菱電機株式会社

お問合せは……………三菱電機株式会社 〒100東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)

技術士資格取得体験記

天 野 浩 志

技術士とは、技術士法第2条にあるように、技術士の名称を用いて科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項について、計画・研究・設計・分析・試験・評価などのコンサルティング業務を行う資格です。技術革新の進む現代社会において、技術士に対する評価・ニーズの高まりとともに、技術士は弁護士・公認会計士・弁理士にならぶ4大国家資格の一つともいわれ、技術士の資格を活用する分野もさらに広がりをみせており技術者として最高の資格であるといえます。

しかしながら技術士試験は、筆記試験によって実務経験がチェックされ、さらに口頭試問で技術士としての適性・品位などが問われ、国家資格試験のなかでも合格するのが難しい試験の一つとなっています。(オーム社刊 技術士試験-合格へのプロセス-より引用)

このように、技術士資格は技術者に取って魅力のあるものであり、科学技術分野における国家資格で最高の権威あるものとして以前から承知しており、いつかは自分もチャレンジしたいとかねてから考えていた。

製造業の設備開発・設計・生産技術部門に身を置いて25年を経過した平成元年の人事移動で、長年にわたる生産技術部門から現部門に配置転換したので機に、今までに自分が蓄積した技術を纏めてみたいと考え、また、50歳前のまだ体力に自信のある内に乾坤一擲の勉強をしてみたいと思い、技術士資格の取得を決意した。

早速、受験対策用の参考書を購入してきて帰宅後勉強を始めてみたが、暫くぶりの本格的な勉強とあって、しかも怠惰な日常が祟ったことと仕事の多忙を言訳にして思うように捗らなかった。そこで自分自身に以下の命題を課し実践することとした。

- ①仕事が忙しいのは当たり前、業務多忙を言訳にしない。
- ②毎日必ず、例え10分間でも勉強する。
- ③休日は、可能な限り終日勉強する。
- ④出張時にも、車内・ホテルで勉強できる用意をして出かける。

以上の意気込みで平成元年9月から本格的に勉強を開始した。

技術士第2次試験は、全て論文記述試験であり、大別すると次のようになっている。

午前 3時間：業務経験論文(4,000字)

午後 4時間：専門分野および専門外の知識を問う論文(8,000字)

このため、先ず業務経験論文を自分が最も得意とする自動制御の分野の中からテーマを選定して論文を書くことに定め、とにかく書き始めた。

ここで重要なことは、技術士試験の論文は、技術解説を行うことではなく自分の技術的知識をその業務にどのように生かし、その業務がどのように達成されどんな成果が得られたか、また、その技術は現時点の先端技術や海外の技術レベルに比べてどのように評価するかという点であると考え、構想を練り平成2年3月までの7ヶ月間かかっておよそ40回程推敲を重ねた結果、自分でもこれなら合格が可能ではないかと思われる程度に纏め上げることができた。

次に、知識が問われる午後の部の試験対策として、技術情報を系統的に整理し知識として身に付けるため以下の書籍を購入し、技術分野・キーワード別に整理しデータベースを作成した。

- ①電子情報通信ハンドブック
- ②電気工学ハンドブック
- ③電子情報通信学会誌・同論文誌(A分冊)
- ④計測自動制御学会誌・同論文集
- ⑤OHM(苦手な強電対策用)
- ⑥この他に会社で定期購入している新聞・雑誌類から技術的な情報および科学技術や産業界に影響をピックアップした。

これらの情報から自分なりに、過去の試験問題から技術士試験の何たるかを類推し予想問題を作成し、答案論文を何種類も推敲した。

技術士受験のための学習を始めてから、会社での日常の業務処理能力と文書類作成能力が向上し、従前のように毎日残業で帰宅時間が遅くなるようなことが無くなったのは、思わぬ成果である。

平成元年9月~平成2年8月中旬までの長かった準備期間を経て8月23日に行われた筆記試験に臨んだ。

筆記試験の会場は、青山学院大学で猛暑の中、冷房も効かない所で午前9時~午後5時まで試験問題と格闘した。およそ12,000字の論文を書き上げて試験会場を出た時は、頭は霞がかかったようであり、右手は痺れてしまい腰も重くなっており、終わったという爽快感はなく虚脱状態で家路に向った。

筆記試験後、万が一の合格に備え口頭試問対策として、筆記試験の全問題とそれに対する自分の回答を思い出し、殆ど試験に回答したのと同じ程度に回答論文を作成した。また、選択問題で自分が選択しなかった問題についても回答を作成しておいた。この作業は結

構大変であったが、口頭試問対策として重要なポイントである。

10月31日の筆記試験合格発表当日は、たまたま東京事務所での会議があり、一寸早目に青梅の勤務先を出て、途中で科学技術庁に寄って発表を見てみた。

合格するとは思ってもいなかったのが掲示板に合格者として自分の名前があった時は、それこそ天にも登るほど気持が高揚したことを今でも鮮明な記憶として残っている。

筆記試験合格者を対象に行われた12月の口頭試問は、筆記試験後に苦労して行ったことが幸いして十分な余裕を持って臨むことができ、5人の試験官からの40分間にわたる矢継ぎ早の質問にも、自分が技術士となった場合を仮定して満足に答えることができたと考えている。

1月31日の技術士第2次試験合格者発表で、初めての挑戦にも拘らず無事に合格を果すことができたことは望外の喜びであり、妻を初め家族の協力のお陰と感謝している。

私は、平成2年度技術士第2次試験を、

技術部門：電気・電子部門

選択科目：電子応用科目

専門事項：自動制御

で受験し、幸いにも合格率10%以下（今年度の電子応用科目の合格者14人）の難関を突破して資格を取得することができました。

現在、技術士登録も完了し、名実ともに技術士の仲間入りを果し、今後も科学技術の発展と国民経済の向上に寄与できるように頑張る積りでおります。

本文を読んだ皆様の中で技術士資格に興味を持たれた方がおられましたら、自己研鑽のためにも、資格取得をお勧めします。その際、微力ではありますが、私でお役に立つことがあれば、御連絡下さい。

(昭和39年卒)

日本ケミコン株式会社
生産システム部次長

500-020号

技術士登録証

天 野 尚 志
昭和16年4月10日生

登録年月日 平成3年3月4日
登録番号 第24020号
合格した技術部門の名称 電気・電子部門

技術士法第32条第1項の規定により登録したことを証する
平成3年3月4日

指定登録機関
社団法人
日本技術士会会長 上田 隆

社団法人日本技術士会は技術士法第40条第1項の規定により科学技術庁長官が指定した指定登録機関である
平成3年1月4日

科学技術庁長官 小 東 昭

技術士

普段の生活の豊かさとは裏腹に
ハングリーでなければ生きていけないのが
現代のビジネス界
デジタル通信網の構築で
ますますポテンシャルの高まった情報産業界で
あらゆる可能性を掘り尽くす
これがトッパン・ムーアのアイデンティティだ

中央大学OB在籍者69名 内電気工学科7名



トッパン・ムーア株式会社

本 社 千101 東京都千代田区神田駿河台1-6 ☎0120-112422(フリーダイヤル)
資本金75億円 従業員数2,800名 売上高1,300億円(1990年3月期)



Dig-it-al! はトッパン・ムーアを採用コンセプトです

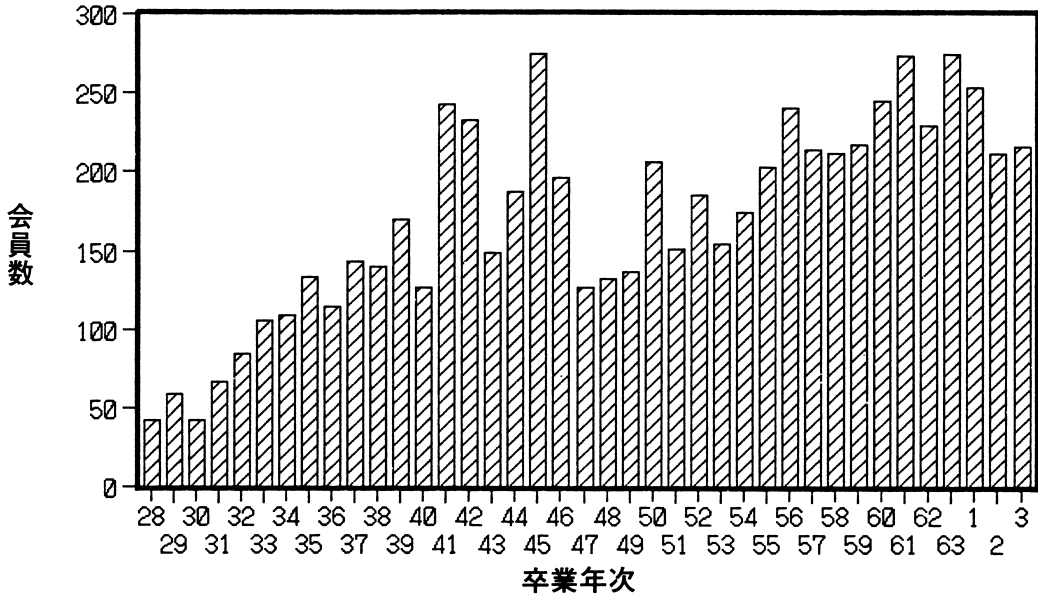
中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

卒業年次別会員数一覧表

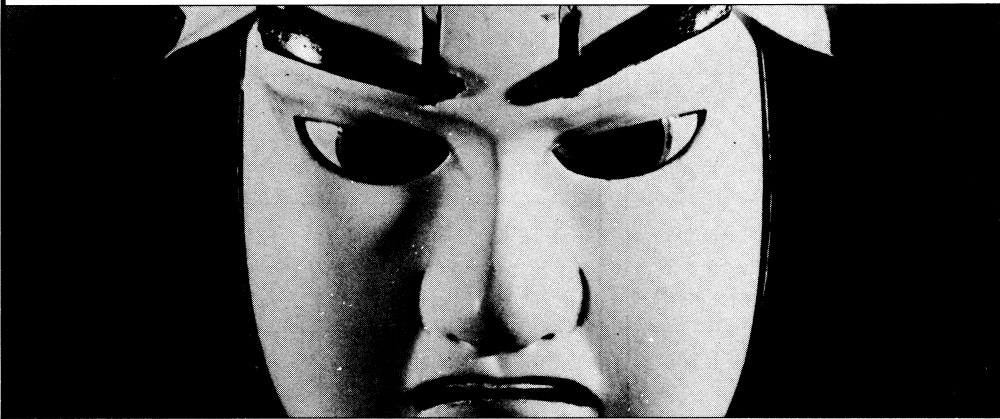
期	卒業年	会員数	累積数
1 期生	昭和 28 年	42	42
2 期生	昭和 29 年	59	101
3 期生	昭和 30 年	42	143
4 期生	昭和 31 年	66	209
5 期生	昭和 32 年	84	293
6 期生	昭和 33 年	105	398
7 期生	昭和 34 年	109	507
8 期生	昭和 35 年	133	640
9 期生	昭和 36 年	114	754
10 期生	昭和 37 年	143	897
11 期生	昭和 38 年	139	1,036
12 期生	昭和 39 年	169	1,205
13 期生	昭和 40 年	126	1,331
14 期生	昭和 41 年	242	1,573
15 期生	昭和 42 年	232	1,805
16 期生	昭和 43 年	148	1,953
17 期生	昭和 44 年	187	2,140
18 期生	昭和 45 年	275	2,415
19 期生	昭和 46 年	196	2,611
20 期生	昭和 47 年	126	2,737

期	卒業年	会員数	累積数
21 期生	昭和 48 年	132	2,869
22 期生	昭和 49 年	136	3,005
23 期生	昭和 50 年	206	3,211
24 期生	昭和 51 年	151	3,362
25 期生	昭和 52 年	185	3,547
26 期生	昭和 53 年	154	3,701
27 期生	昭和 54 年	174	3,875
28 期生	昭和 55 年	203	4,078
29 期生	昭和 56 年	240	4,318
30 期生	昭和 57 年	214	4,532
31 期生	昭和 58 年	211	4,743
32 期生	昭和 59 年	217	4,960
33 期生	昭和 60 年	245	5,205
34 期生	昭和 61 年	273	5,478
35 期生	昭和 62 年	229	5,707
36 期生	昭和 63 年	274	5,981
37 期生	平成 1 年	253	6,234
38 期生	平成 2 年	211	6,445
39 期生	平成 3 年	216	6,661

中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会
卒業年次別会員数推多

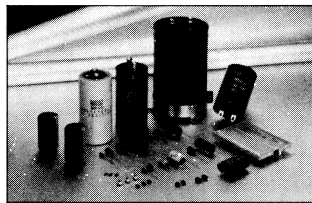


主役を引き立てる。



ハイテク機器の演出者・日本ケミコン。

文楽の蔭の立役者が人形師ならエレクトロニクス時代の蔭のリーダー、日本ケミコン。人工衛星からコンピュータ、テレビ、オーディオなどあらゆるハイテク機器の心臓部・アルミ電解コンデンサやハイブリッドICなど各種エレクトロニクス関連製品の製造・販売をもとに技術と信頼の輪を広げています。



エレクトロニクス時代を変える世界のブランド
NIPPON CHEM-CON 日本ケミコン株式会社
〒142 東京都品川区豊町2-7-8 ☎03(3785)1251

平成 3 年 卒 業 者 進 路 先 一 覧 表

進 路 先 名 称	人数	進 路 先 名 称	人数	進 路 先 名 称	人数
大学院	13	アンリツ	1	西武鉄道	1
三菱電機	7	オービック	1	赤井電機	1
東芝	6	オムロン	1	川口市役所	1
パイオニア	5	オリエントコーポレーション	1	前橋市役所	1
沖電気工業	5	キャノン販売	1	双葉電子工業	1
松下電器産業	5	ケンウッド	1	大成建設	1
日産自動車	5	サンケン電気	1	大正製薬	1
日立製作所	5	セイコーエプソン	1	大倉電気	1
キャノン	4	セイコー電子工業	1	大林組	1
ソニー	4	ゼクセル	1	大和総研	1
日本ビクター	4	タバイエスベック	1	第一生命保険	1
日本電気	4	ティアック	1	第二電電	1
オリンパス光学工業	3	トキメック	1	中央大学	1
関電工	3	トヨタテクノクラフト	1	電源開発	1
東京電力	3	ニコン	1	東京海上火災保険	1
日本電装	3	ファナック	1	東京電気工務所	1
富士通	3	ミサワホーム	1	東芝トランスポートエンジニア	1
本田技研工業	3	ヤマハ	1	東証コンピュータシステム	1
NKK	2	ヤマハ発動機	1	東電ソフトウェア	1
NTTデータ通信	2	ユニデン	1	東北電力	1
いすゞ自動車	2	安田火災海上保険	1	東洋通信機	1
シャープ	2	衛星チャンネル	1	藤倉電線	1
スタンレー電気	2	横河デジタルコンピュータ	1	凸版印刷	1
マツダ	2	横河電機	1	日新製鋼	1
リコー	2	京王電鉄	1	日本アンテナ	1
横河システムエンジニアリング	2	共同ヴァン	1	日本移動通信	1
松下通信工業	2	協和銀行	1	日本航空	1
東芝ライテック	2	近畿日本ツーリスト	1	日本航空電子工業	1
日本IBM	2	古河電気工業	1	日本電気通信システム	1
日本テレコム	2	光洋精工	1	日野自動車工業	1
日本モトローラ	2	国際証券	1	日立電線	1
日本ユニシス	2	三菱スペースソフトウェア	1	菱光証券	1
日本無線	2	三菱金属	1	浜松ホトニクス	1
富士通ゼネラル	2	三菱信託銀行	1	富士ゼロックス	1
CBSソニーグループ	1	三洋電機	1	富士通テン	1
HOYA	1	山一証券	1	富士通パソコンシステムズ	1
JR東海	1	鹿島建設	1	文京区役所	1
NHK	1	住友信託銀行	1	北陸ガス	1
NMBセミコンダクター	1	小林コーサー	1	豊田自動織機	1
NTT	1	進学	1	明電舎	1
PFU	1	新日本製鉄	1	留学	1
アイダエンジニアリング	1	神奈川県庁	1	進路先不明者	6
アプライドマテリアルズジャパン	1	清水建設	1		
				総 合 計	216

中央大学理工学部電気・電子工学科卒業生 過去3年間の進路先一覧表

進路先名称	H1	H2	H3	計	進路先名称	H1	H2	H3	計
大学院	23	26	13	62	東洋通信機	1	0	1	2
三菱電機	5	7	7	19	日本電気エンジニアリング	1	1	0	2
パイオニア	4	5	5	14	日本電気ソフトウェア	2	0	0	2
沖電気工業	6	3	5	14	日本電気ホームエレクトロニクス	1	1	0	2
東芝	3	5	6	14	日本電気マイコンテクノロジー	2	0	0	2
日本電気	5	5	4	14	日野自動車工業	1	0	1	2
ソニー	3	4	4	11	日立精機	0	2	0	2
松下電器産業	4	1	5	10	浜松ホトニクス	1	0	1	2
日産自動車	3	2	5	10	富士通電装	1	1	0	2
日本ビクター	3	2	4	9	CBSソニーグループ	0	0	1	1
富士通	2	4	3	9	HOYA	0	0	1	1
ケンウッド	5	2	1	8	JR西日本	1	0	0	1
松下通信工業	4	2	2	8	JR東海	0	0	1	1
NTT	2	4	1	7	JR東日本	1	0	0	1
キャノン	2	1	4	7	NHK	0	0	1	1
リコー	3	2	2	7	NMBセミコンダクター	0	0	1	1
日立製作所	0	2	5	7	NTTソフトウェア	1	0	0	1
カシオ計算機	3	3	0	6	TDK	1	0	0	1
シャープ	1	3	2	6	YHP	0	1	0	1
横河電機	3	2	1	6	アイダエンジニアリング	0	0	1	1
東京電力	0	3	3	6	アサヒビール	0	1	0	1
マツダ	2	1	2	5	アプライドマテリアルジャパン	0	0	1	1
日本テレコム	1	2	2	5	アマダ	1	0	0	1
日本電装	1	1	3	5	アマダメトレックス	0	1	0	1
本田技研工業	2	0	3	5	イトマン	0	1	0	1
NTTデータ通信	0	2	2	4	オムロン	0	0	1	1
オリンパス光学工業	1	0	3	4	オムロンソフトウェア	0	1	0	1
トキメック	0	3	1	4	オリエンタルモータ	1	0	0	1
ヤマハ	3	0	1	4	オリエントコーポレーション	0	0	1	1
関電工	1	0	3	4	オリエントファイナンス	1	0	0	1
清水建設	1	2	1	4	キリンビール	1	0	0	1
日本IBM	2	0	2	4	クボタコンピュータ	0	1	0	1
日本NCR	2	2	0	4	クロステレビ	0	1	0	1
日本ユニシス	2	0	2	4	日立電線	1	1	1	3
日本無線	2	0	2	4	富士重工業	1	2	0	3
NKK	1	0	2	3	富士通ゼネラル	1	0	2	3
PFU	1	1	1	3	アンリツ	1	0	1	2
アルプス電気	2	1	0	3	いすゞ自動車	0	0	2	2
クラリオン	3	0	0	3	セイコーエプソン	0	0	1	1
ティアック	0	2	1	3	セイコー電子工業	0	0	1	1
間組	1	2	0	3	ゼクセル	0	0	1	1
光洋精工	1	1	1	3	ソニー・テクトロニクス	1	0	0	1
三洋電機	0	2	1	3	ソフィアシステムズ	1	0	0	1
双葉電子工業	2	0	1	3	タバイエスベック	0	0	1	1
大成建設	0	2	1	3	ダスキン	1	0	0	1
電二電電	1	1	1	3	トーヨーサッシ	0	1	0	1
電源開発	0	2	1	3	トヨタテクノクラフト	0	0	1	1
東光電気	2	1	0	3	ニコン	0	0	1	1
日本モトローラ	0	1	2	3	ファナック	0	0	1	1
オービック	1	0	1	2	フランスベッド	0	1	0	1
キャノン販売	1	0	1	2	ミサワホーム	0	0	1	1
スタンレー電気	0	0	2	2	ヤマハ発動機	0	0	1	1
フォスター電機	2	0	0	2	ユニデン	0	0	1	1
横河システムエンジニアリング	0	0	2	2	リオン	1	0	0	1
沖通信システム	1	1	0	2	ローム	0	1	0	1
宮城日本電気	2	0	0	2	安田火災海上保険	0	0	1	1
九州日本電気	0	2	0	2	伊藤忠建機	0	1	0	1
住友電設	0	2	0	2	衛星チャンネル	0	0	1	1
全日空	0	2	0	2	横河デジタルコンピュータ	0	0	1	1
大和総研	0	1	1	2	横河メディカルシステム	0	1	0	1
池上通信機	1	1	0	2	横河ユースシステム	0	1	0	1
中央システム技研	0	2	0	2	岡村製作所	1	0	0	1
東芝メデイカル	2	0	0	2	勸業角丸証券	1	0	0	1
東芝ライテック	0	0	2	2	関西電力	0	1	0	1
東北電力	0	1	1	2	関東自動車工業	1	0	0	1

岩谷産業	1	0	0	1	中部電力	1	0	0	1
京王電鉄	0	0	1	1	三ツ葉電機製作所	1	0	0	1
京浜急行電鉄	0	1	0	1	三井情報開発	1	0	0	1
共同ヴァン	0	0	1	1	三田工業	0	1	0	1
協和銀行	0	0	1	1	三菱スペースソフトウェア	0	0	1	1
教員(長野県)	1	0	0	1	三菱金属	0	0	1	1
近畿日本ツーリスト	0	0	1	1	三菱信託銀行	0	0	1	1
建設省	0	1	0	1	三菱電機情報ネットワーク	0	1	0	1
古河電気工業	0	0	1	1	三和証券	1	0	0	1
公務員上級(千葉県)	1	0	0	1	山一証券	0	0	1	1
厚木ユニツア	0	1	0	1	東松山市役所	0	1	0	1
国家公務員2種	1	0	0	1	東証コンピュータシステム	0	0	1	1
国際証券	0	0	1	1	東電ソフトウェア	0	0	1	1
国際電気	1	0	0	1	東武鉄道	0	1	0	1
佐島電機	0	1	0	1	藤倉電線	0	0	1	1
阪和興業	1	0	0	1	栃木ニコン	0	1	0	1
埼玉リコー	0	1	0	1	凸版印刷	0	0	1	1
埼玉銀行	0	1	0	1	日産システム開発	0	1	0	1
コニカ	0	1	0	1	日新製鋼	0	0	1	1
コロンビア	1	0	0	1	日置電機	0	1	0	1
サンケン電気	0	0	1	1	日通工	0	1	0	1
シーメンス旭メディテック	0	1	0	1	日本アンテナ	0	0	1	1
シチズン	1	0	0	1	日本ケミコン	1	0	0	1
山武ハネウエル	1	0	0	1	日本サーモスタット	1	0	0	1
山陽電気工事	1	0	0	1	日本サンマイクロシステムズ	0	1	0	1
山陽電工	1	0	0	1	日本データカード	0	1	0	1
自動車機器	0	1	0	1	日本ベレー	1	0	0	1
鹿島建設	0	0	1	1	日本移動通信	0	0	1	1
七十七銀行	0	1	0	1	日本航空	0	0	1	1
芝浦製作所	0	1	0	1	日本航空電子工業	0	0	1	1
秋田日本電気	0	1	0	1	日本国際通信	0	1	0	1
住友銀行	0	1	0	1	日本自動車	0	1	0	1
住友軽金属	1	0	0	1	日本水産	1	0	0	1
住友信託銀行	0	0	1	1	日本精機	1	0	0	1
住友生命	1	0	0	1	日本精工	1	0	0	1
住友電装	0	1	0	1	日本通信協力	0	1	0	1
小糸製作所	1	0	0	1	日本電気通信システム	0	1	0	1
小田急電鉄	0	1	0	1	長瀬産業	1	0	0	1
小林コーセー	0	0	1	1	長谷工コーポレーション	0	1	0	1
昭和電線	1	0	0	1	長野日本無線	1	0	0	1
新電元	1	0	0	1	島田理化学工業	0	1	0	1
新日本製鉄	0	0	1	1	東急設計コンサルタント	0	1	0	1
神戸新聞社	0	1	0	1	東京海上火災保険	0	0	1	1
神奈川県庁	0	0	1	1	東京電気工務所	0	0	1	1
進学	0	0	1	1	東京放送	0	1	0	1
精工舎	1	0	0	1	東芝トランスポートエンジニア	0	0	1	1
精工社	1	0	0	1	日本電気通信システム	0	0	1	1
聖マリアンナ医大	1	0	0	1	日本板硝子	0	1	0	1
西武鉄道	0	0	1	1	日立デバイスエンジニアリング	1	0	0	1
赤井電機	0	0	1	1	日立マイクロコンピュータエンジ	1	0	0	1
千代田化工建設	1	0	0	1	日立通信システム	1	0	0	1
川口市役所	0	0	1	1	菱光証券	0	0	1	1
川崎重工業	0	1	0	1	菱電商事	1	0	0	1
前橋市役所	0	0	1	1	富士ゼロックス	0	0	1	1
全国朝日放送	1	0	0	1	富士写真光機	1	0	0	1
相模鉄道	1	0	0	1	富士通テン	0	0	1	1
太陽誘電	0	1	0	1	富士通デジタルテクノロジー	0	1	0	1
大成火災海上保険	0	1	0	1	富士通パソコンシステムズ	0	0	1	1
大正製薬	0	0	1	1	富士電機エンジニアリング	1	0	0	1
大倉電気	0	0	1	1	武藤工業	0	1	0	1
大林組	0	0	1	1	文京区役所	0	0	1	1
第一勧銀コンピュータサービス	1	0	0	1	豊田自動織機	0	0	1	1
第一生命保険	0	0	1	1	北陸ガス	0	0	1	1
中央大学	0	0	1	1	明電舎	0	0	1	1
中央大学技術員	1	0	0	1	留学	0	0	1	1
中国電力	0	1	0	1	進路先不明者	54	18	6	78
中情報システム	0	1	0	1					
					総合計	253	211	216	680

平成元年度 会計報告

収入の部

前年度よりの繰越金	5,450,887
元年度総会々費	503,000
預貯金利息	109,014
名簿売上代金	0
終身会費	320,000
寄付金	0
広告料	0
計	6,382,901

支出の部

元年度総会費	331,817
通信及び印刷費	877,101
アルバイト代	131,504
事務・運営費	90,665
名簿関係、印刷費	0
通信費	0
アルバイト代	0
事務費	0
慶弔費	9,633
記念事業費	0
次年度繰越金	4,942,181
計	6,382,901

上記平成元年度会計報告の収支計算は適正に表示しているものと認める。

平成2年10月31日

弁理士 服部修一 ㊞

卒業生名簿1991年版 発刊について

名簿ご購入の方は、郵便振替をご利用の上、同窓会までお申込み下さい。

なお、値段は、送料とも3,500円となります。

口座番号 東京3-752276番
名称 中央大学理工学部
電気・電子工学科同窓会

表紙の写真を プレゼントします

毎号表紙に掲載している写真は
大越氏の趣味によるものです。

来る11月9日の懇親会において
いままで載せた5枚を抽選により
差し上げたいと思います。興味
ある方はお楽しみに。

入会申込書

平成 年 月 日

同窓会長 殿

年卒業



私は終身会費 7,000円を添えて
入会を申し込みます。

編集後記

広告を募集します。

今年9月9日～13日の間に3年生を6社に分けて工場見学を実施しました。

大学院を含めて卒業する学生院生は210名。これに対して求人企業数8,300社、学生達は自由に鳥のように飛び立って行きます。

あなたの会社の広告でも、この会誌に紹介してみたいかがでしょうか。

Tel 03-3817-1862

FAX 03-3817-1847

(市川)

発行 中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

〒112 東京都文京区春日1-13-27

電話 03-817-1862

発行人 堀中 武和

編集人 市川 友之

印刷所 エース工芸株式会社

〒354 埼玉県富士見市鶴馬2589

電話 0492(51)1305

平成3年度 総会・懇親会のお知らせ

中央大学の4学部が駿河台から多摩に移転して(S48年4月)いまは、「駿河台記念館」が残るだけです。

大先輩の皆さんは、昔をなつかしく思出されることでしょう。

さて、本年度の総会、懇親会をその中央大学駿河台記念館において開催いたします。ご家族ご同伴でご出席いただき、同窓の励ましと、情報の交換あるいは同期会の一次会とでもしていただけますれば、まことに幸いです。ご出席をお待ちいたします。

なお、会場の都合により10月26日までに、お返事くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日 平成3年11月9日(土)午後3時～6時

会場 中央大学駿河台記念館 レストラン・プリオール

会費 卒業生 7,000円

平成3年卒業 6,000円

学部学生、ご同伴者 5,000円

議事 報告事項ほか

以上

同窓会会長 堀中武和

《最寄駅》

- JR中央線「お茶の水駅」
徒歩3分
- 地下鉄丸の内線「お茶の水駅」
徒歩6分
- 地下鉄千代田線「新お茶の水駅」
B1・B3 徒歩3分
- 地下鉄都営新宿線「小川町駅」
B5 徒歩5分



〈記念館1階〉第一ホテル運営

レストラン・プリオール
カフェ・ボンヌフ

☎(03)3219-6085

